

議員のなり手不足は報酬増額で解消するか

無投票が続き、いざれは定員割れが危惧される地方議会。地元の「名士」たちの「奉仕の精神」に支えられてきた議会が、高齢化や少子化とともに立候補者の減少で崩壊しつつある。

議員活動の対価として支払われる報酬の引き上げで、議員のなり手不足は解消できるのか。

相次ぐ 議員報酬引き上げ

県内の市町では議員報酬を引き上げようとする動きが相次いでいる。県内17市町の議員報酬は福井市の月63万円が最も高く、最も安いのは永平寺町の22万円と自治体によって大きな差がある。このうち、おおい町は一昨年引き上げられ、南越前町は先月引き上げが決まった。他にも、大野市が3万円増の38万7千円、県内最低の永平寺町が3万円増の25万円を審議会が首長に答申し、勝山市・越前市・美浜町・高浜町でも引き上げの動きがある。

南越前町では、9月定例議会で議員報酬を月額7万6千円引き上げ、30万2千円とする条例案が可決。期末手当を含めた議員年収は約480万円となる見込み。県内8町で最高額となり、来年5月1日から施行される。

昨年12月、南越前町議会の議長らが町長に「議会のさらなる活性化や、今後議員を志す優秀な人材確保のためにも報酬増額が必要と考える」と議員報酬の引き上げの要望書を提出し、町は特別職報酬審議会を設置し検討してきた。

平成17年に3つの町村が合併してできた南越前町の議員報酬は月額22万6千円。合併

以来20年間据え置かれていて、化を期待する。
県内17市町のうち下から2番目に安い金額だった。議員報酬以外に政務活動費などは支給されず、税金などを引くと手取りはさらに少なくなり18万円ほどに。これでは議員一本では生計が成り立たない。

一方、美浜町議会もなり手不足の解消などを理由に昨年、議員が23万5千円から38万5千円への引き上げを提案。引き上げ幅は6割以上になる。大幅な引き上げを提案した背景には、過去に選挙が選舉を見ると、前々回の町議選では定数14に対しても立候補したが、前回は定数12に対しても立候補者は13人となり立候補者が減少している。議員らは報酬引き上げで若い人たちが積極的に立候補して議会の活性化を期待する。

議員と町民の 感覚のズレ

しかし、町が審議会を開いて検討した結果、妥当とされたのは現在より2割ほど引き上げた27万4千円。審議会で浮彫になつたのは、議員と町民の感覚のずれだつた。